

5) デイゴ=梯姑

インドを原産地とするデイゴはマメ科の落葉高木で、九州や沖縄などの暖地では庭木や街路樹として栽培されている。高さは10m以上になり、幹には榴が、若い枝には刺があり、初夏から秋まで紅紫色の蝶形の花を咲き続ける。旗弁は大きく他の弁は比較的小さいために、アカンベをしているような印象を受ける。和名の由来は沖縄での呼称『梯姑』の音読みである。学名は『*Erithyrin variegata*』で、属名及び種小辞はそれぞれ「赤の」、「斑入りの」という意味である。このため本種を、梯姑といわずに『エリスリナ』と呼ぶこともある。またイギリスでは『coral tree』と呼び、中国では刺があるために『刺桐』と呼んでいる。これに因んで日本でもハリギリと呼ぶこともある。英国名の「珊瑚の木」とはなかなか洒落た呼び方である。本種とよく似たものにアメリカデイゴという品種もある。学名は『*Erithyrin crista-galli*』、南アメリカの原産種で、デイゴよりも耐寒性がずっと強いために、九州以北の地では『マルバデイゴ』などと呼んで栽培している。これを『カイコウズ』と呼ぶことも多いが、これは誤りで『海紅豆』というのは『南蛮小豆』のことで本種ではない。

デイゴの種子や樹皮にはエリスリナというアルカロイドが含まれており、神経を麻痺させる作用がある。これを利用してアメリカのインディオは歯痛の治療に用いたという。漢方ではデイゴの樹皮を『海桐皮』といい麻酔剤として用いている。東南アジアの国々では葉を山羊や牛などの家畜に食べさせていたが、最近ではもっぱら観賞用となっている。材は一般に柔らかく軽いために琴、下駄、琉球漆器などの木地に用いている。またタイではデイゴの木をすりつぶして白粉の替わりに用いていたこともある。コロンビアなどではこのデイゴの近縁種である『エデュリス種』の種子を煮て食べるところもあり、アメリカの『アルボレア種』は、種子が赤くて美しいためにネックレスなどにして土産物屋で売られている。

この種はどれも挿し木でよく発根し、4月頃にかなり太い直径が3cmぐらいの枝でも30cmぐらいの長さに切って砂地に挿しておけば、数ヶ月で立派な苗木になり、うまくすればその年に花が咲く。よく切れる切り出しやカッターナイフで切り口を綺麗に仕上げるのが挿し木のコツで、発根剤などを用いればさらに確率が高くなる。一度試してみることをお勧めしたいが、気温が25℃以上の、暖かいところでないとうまく行かない。農家のフレームの片隅などに置かせて貰えば最高である。またこのため発根したばかりの苗木が売られていることもよくあり、これは管理を失敗すると、すぐに枯れてしまうことも多い。ポイントは常に寒さに当てないことと、適度に湿度を保つことで、乾きすぎないように、また過湿になり過ぎないように、水やりに注意することである。信頼できる店であればしっかりと根のできたものを販売しているはずであるが、できれば前年に挿し木したもので、白根がすでに木化しているものがよい苗木であるといえよう。

ところでデイゴといわれてもピンと来ない方も多いと思われるが、多分あの島唄の中で歌われている花だといえば、思い出される方も多いだろう。1993年の夏ごろ大ヒットした『BOOM』の歌で、作詞も作曲も宮沢和史氏によるものであった。

島唄

デイゴの花が咲き 風を呼び 嵐が来た
デイゴが咲き乱れ 風を呼び 嵐が来た

くり返す悲しみは 島渡る 波のよう
ウージの森であなたと出会い
ウージの下で千代にさよなら
島唄よ 風に乗る 鳥とともに 海を渡れ
島唄よ 風に乗る 届けておくれ 私の涙

デイゴの花も散り さざ波がゆれるだけ
ささやかな幸せは うたかたの波の花
ウージの森で歌った友よ
ウージの下で八千代の別れ

島唄よ 風に乗る 鳥とともに 海を渡れ
島唄よ 風に乗る 届けておくれ 私の愛を

海よ 宇宙よ 神よ いのちよ
このまま永遠に夕風を

島唄よ 風に乗る 鳥とともに 海を渡れ
島唄よ 風に乗る 届けておくれ 私の愛を

ウージはサトウキビのことで、ウージの森はサトウキビ畑のことである。沖縄民謡の調べにのった、いかにも異国的ないい歌だった。あれから20年以上の歳月が過ぎて、この歌をカラオケで歌いまくった世代も、今や40代の中年に差し掛かっているはずである。当時はバブルが1991年に弾けた直後のことで、就職にも実生活にも苦勞の多い時代だった。そしてバブルとは1985年9月22日、先進5カ国蔵相、中央銀行総裁会議による為替レート安定化に関する『プラザ合意』に始まったものであった。



真っ赤なアメリカデイゴ(マルバデイゴ)の花は、沖縄の県花でもある(神奈川県真鶴岬)。



アメリカダイゴの花、ダイゴより耐寒性が強く、関東地方でも温暖地では、屋外で越冬できる。



ダイゴの近縁種「珊瑚紫豆(サゴシトウ)」の花は学名『*Erythrina bidwillii*』、『*Erythrin herbacea*』とアメリカダイゴの交配種で、葉が菱形のため「菱葉ダイゴ」とも呼び、東海以西なら越冬できる。 [目次に戻る](#)